松本大学・松商短期大学部・松本大学大学院 | 2026年度前期授業アンケート 集計報告書

1.アンケートの趣旨・目的

授業を受講した学生から率直な意見を集め、大学教育や学びの実態を把握し、授業の継続的な向上活動や教育環境の充実につなげることを目的に実施しています。

2.調査概要

調査期間：2026年7月16日（木）～8月5日（水）　※一部科目では実施時期が異なります
実施方法：UNIPA による WEB アンケート方式

組織	延べ対象者数	延べ回答者数	対象科目数	回答率
大学	17,496	12,171	315	69.6%
短大	3,227	2,349	85	72.8%
教職	313	204	14	65.2%
大学院	24	10	15	41.7%
合計	**21,130**	**14,759**	**430**	**69.8%**

3.設問項目

カテゴリ	設問	回答形式
到達目標達成度	あなたはこの授業において、シラバスに示されている学修到達目標を達成できましたか	選択式(4件法)
学生の意欲	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか	選択式(4件法)
教員の熱意	学生に理解させようとする教員の熱意・意欲を感じましたか	選択式(4件法)
授業の工夫	この授業は内容が良く理解できるよう工夫・配慮されたものでしたか	選択式(4件法)
学生参加	この授業は学生参加（質問・発言・発表・活動など）ができるよう工夫・配慮されたものでしたか	選択式(4件法)
教職への意欲	あなたはこの授業を受けて、どのくらい教職への意欲が高まりましたか	選択式(4件法)
教職力量	あなたはこの授業を受けて、どのくらい教員としての力量が備わったと思いますか	選択式(4件法)
授業の良かった点	この授業の内容や方法で特に良かった点、この授業を受けて有益であった点があれば記入してください	自由記述
授業への提案	この授業をよりよくするための提案があれば記入してください。（記入内容は教員個人に関するものではなく、授業に関する提案に限ります。他者への配慮を忘れずに、建設的なフィードバックを提供してください。）	自由記述

4.集計結果の主なポイント

全般に肯定的な評価、回答率は前年並み

学習到達目標達成度や教員の熱意、授業の工夫など、全般に肯定的な評価が見られた。**全体の回答率は69.8%**で、前年同期とおおむね同水準となった。なお、回答率は**学年が上がるにつれて低下する傾向**があり、学科間でも違いが見られた。

少人数授業で高い評価、学生参加には授業間の違い

学修到達目標の達成度は、**少人数授業で高い評価**となる傾向が見られた。また、**学生参加の評価は、設問の中で授業間のばらつきが最も大きかった。**授業の内容や形態を踏まえ、学生の理解や参加のしやすさという観点からも、**授業規模について検討する必要性**がうかがえた。

具体例・体験談が好評、資料は配布の要望も

自由記述では、**わかりやすい説明や具体例・体験談が評価**されていた。一方、メモの時間の確保や自宅学習のためにも**授業資料の配布**を求める声もあった。また、後方の席からの見やすさに配慮し、スライドや黒板の下部への文字・図の配置を避けてほしいとの要望も見られた。

※対象者数と回答者数はそれぞれ延べ人数を表示しています

対象年度を選ぶ

- ○ 2024前期
- ○ 2024後期
- ○ 2025前期
- ○ 2025後期
- ◉ 2026前期
- ○ 2026後期

開講組織を選ぶ

- ○ 大学
- ○ 教職
- ○ 短大
- ○ 大学院

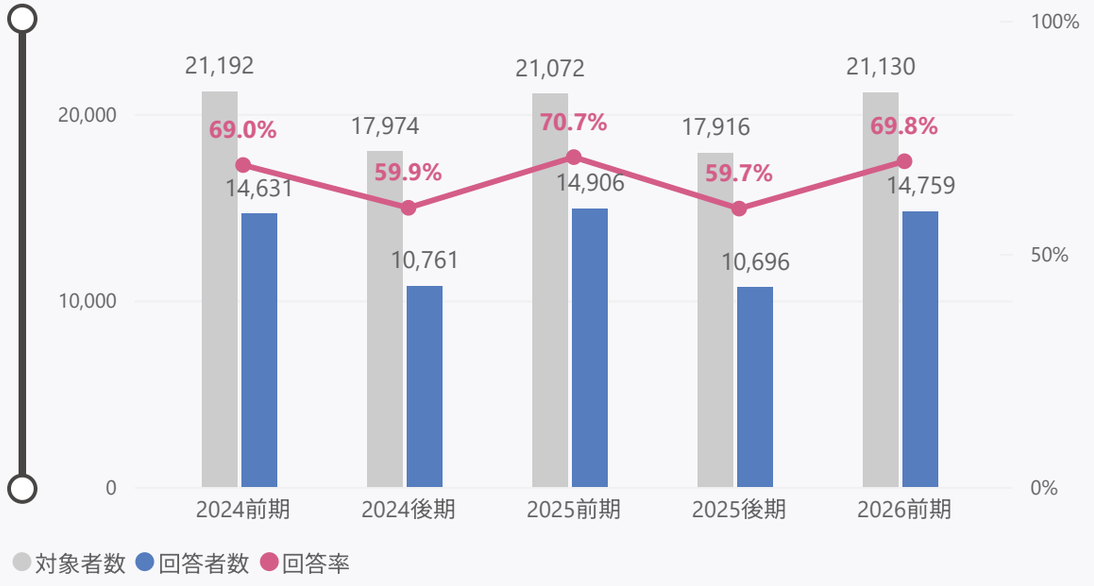
開講学科を選ぶ

- ○ 総経
- ○ 観光
- ○ 栄養
- ○ スポーツ
- ○ 教育
- ○ 健研
- ○ 総研

回答率	対象者数	回答者数	対象科目数	
69.8%（前年同学期差 -0.9pt）	21,130	14,759	430	回答率50%未満　70科目 回答率0%　9科目

対象者数・回答者数・回答率の推移

※このグラフは対象年度が固定されています



組織別内訳数

▶対象年度：2026前期

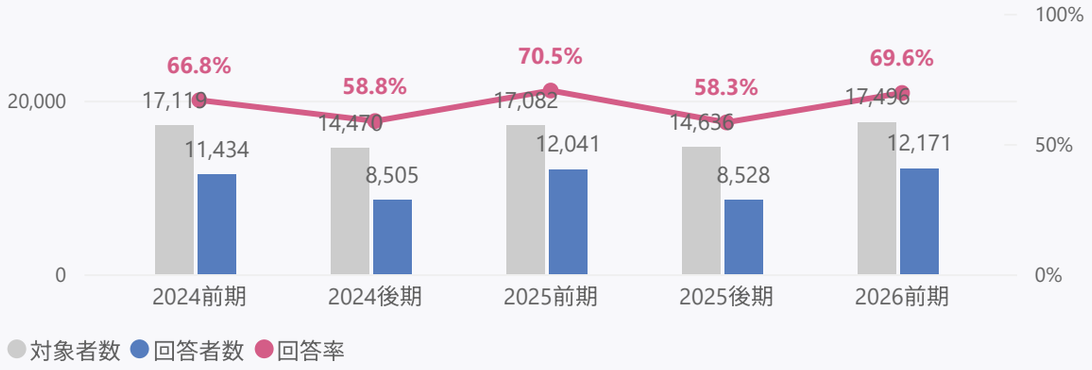
組織	対象者数	回答者数	対象科目数	回答率
⊟ **大学**	**17,496**	**12,171**	**315**	**69.6%**
総経	6,352	3,946	85	62.1%
観光	6,174	4,220	99	68.4%
栄養	5,673	4,181	102	73.7%
スポーツ	5,608	3,903	87	69.6%
教育	4,318	3,353	94	77.7%
⊞ **短大**	**3,227**	**2,349**	**85**	**72.8%**
⊞ **教職**	**313**	**204**	**14**	**65.2%**
⊟ **大学院**	**24**	**10**	**15**	**41.7%**
健研	12	7	9	58.3%
総研	12	3	6	25.0%
合計	**21,130**	**14,759**	**430**	**69.8%**

全体回答率は前年度並みを維持

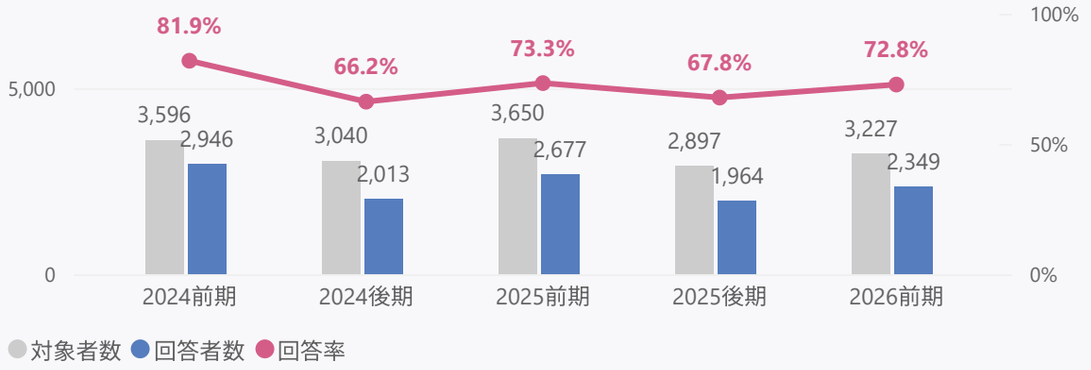
2026年度前期の回答率は69.8%で、前年同期を0.9ポイント下回ったものの、前年度・前々年度の前期と**おおむね同水準**であった。後期に比べて前期の回答率が高い傾向は、今年度も続いている。回答率0%の9科目のうち6科目は大学院であり、受講者が数名の授業では匿名性への懸念から回答しにくい可能性も考えられる。

※対象者数と回答者数はそれぞれ延べ人数を表示しています

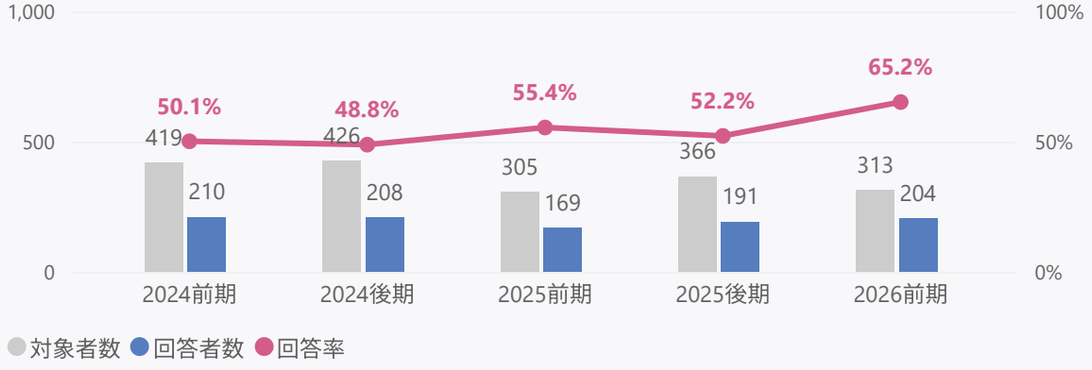
【大学】対象者数・回答者数・回答率の推移



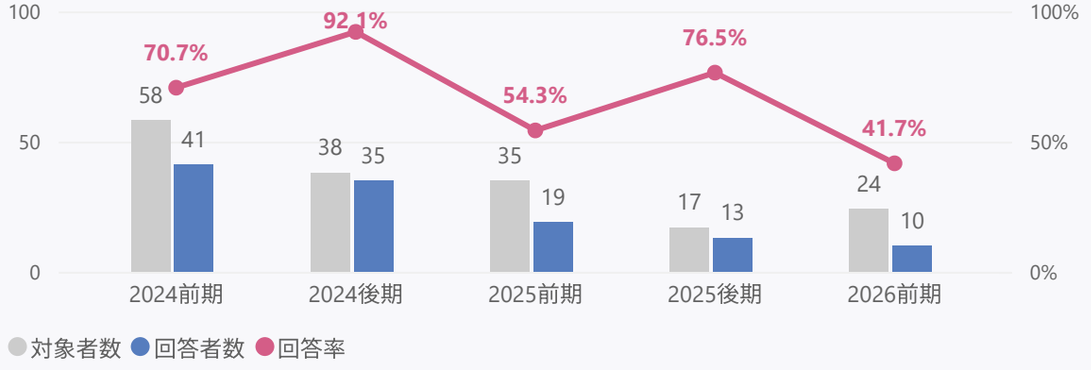
【短大】対象者数・回答者数・回答率の推移



【教職】対象者数・回答者数・回答率の推移



【大学院】対象者数・回答者数・回答率の推移



大学・短大は前年同期並み、教職は上昇、大学院は低下

2026年度前期の回答率は、**大学69.6%、短大72.8%で、前年同期とおおむね同水準**だった。**教職は65.2%と前年同期から9.8ポイント上昇**した一方、**大学院は41.7%と12.6ポイント低下**した。大学・短大では、後期より前期の回答率が高い傾向、一方大学院ではその逆の傾向が続いている。

検証：学生の回答状況（学生所属学科別）

学生一人ひとりの回答率に、所属学科による違いはある？

対象年度を選ぶ
- ○ 2024前期
- ○ 2024後期
- ○ 2025前期
- ○ 2025後期
- ◉ 2026前期
- ○ 2026後期

学生所属組織を選ぶ
- ○ 大学
- ○ 短大
- ○ 大学院

学年を選ぶ
- ○ 1
- ○ 2
- ○ 3
- ○ 4

学生所属学科を選ぶ
- ○ 総経
- ○ 観光
- ○ 栄養
- ○ スポーツ
- ○ 教育
- ○ 健研
- ○ 総研

学生別平均回答率 65.0%

前年同学期　66.1%

前年同学期差　-1.1pt

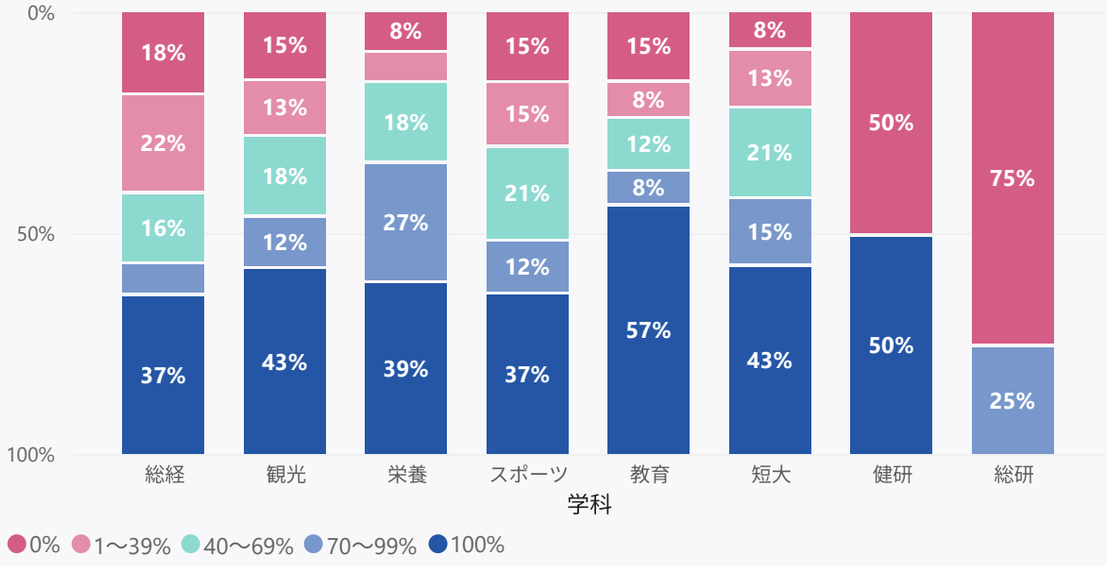
学生数 2,137

平均対象科目数 10

回答率0%の学生数 299

学年別｜学生回答率の構成

▶対象年度：2026前期　▶学年：複数・全学年



組織別内訳数

▶対象年度：2026前期　▶学年：複数・全学年

組織	学生数	平均対象科目数	平均回答率
⊟ **大学**	**1788**	**10**	**64.2%**
総経	438	9	55.9%
観光	385	10	65.1%
栄養	274	11	73.0%
スポーツ	434	10	61.4%
教育	257	10	72.4%
⊞ **短大**	**329**	**10**	**69.9%**
⊟ **大学院**	**10**	**2**	**37.5%**
健研	6	2	50.0%
総研	4	3	18.8%
⊞ **その他**	**10**	**4**	**64.3%**
合計	**2137**	**10**	**65.0%**

学生別平均回答率に学科間の違い、大学では健康栄養・学校教育学科が高い傾向

組織別の学生平均回答率は、**大学64.2%、短大69.9%、大学院37.5%**であった。なお、学生所属学科別では、健康栄養学科73.0%、学校教育学科72.4%が高く、他学科との間に差が見られた。また、学校教育学科では全科目に回答した学生が57%と最も多かった。なお、大学院は対象学生が10名と少なく、受講者が数名の授業では匿名性への懸念から回答しにくい可能性も考えられるため、割合の解釈には留意が必要である。

対象年度を選ぶ
- ○ 2024前期
- ○ 2024後期
- ○ 2025前期
- ○ 2025後期
- ◉ 2026前期
- ○ 2026後期

学生所属組織を選ぶ
- ○ 大学
- ○ 短大
- ○ 大学院

学年を選ぶ
- ○ 1
- ○ 2
- ○ 3
- ○ 4

学生所属学科を選ぶ
- ○ 総経
- ○ 観光
- ○ 栄養
- ○ スポーツ
- ○ 教育
- ○ 健研
- ○ 総研

学生別平均回答率 65.0%

前年同学期　66.1%

前年同学期差　-1.1pt

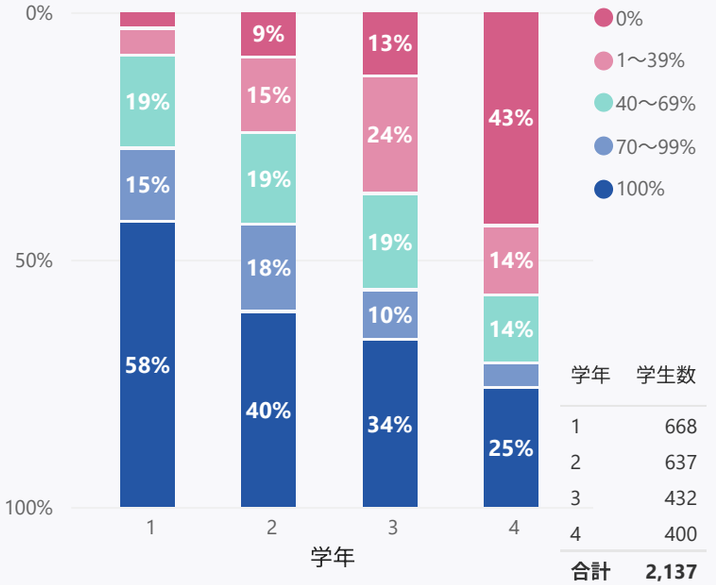
学生数 2,137

平均対象科目数 10

回答率0%の学生数 299

学年別｜学生回答率の構成

▶対象年度：2026前期　▶組織：複数・全組織　▶学科：複数・全..

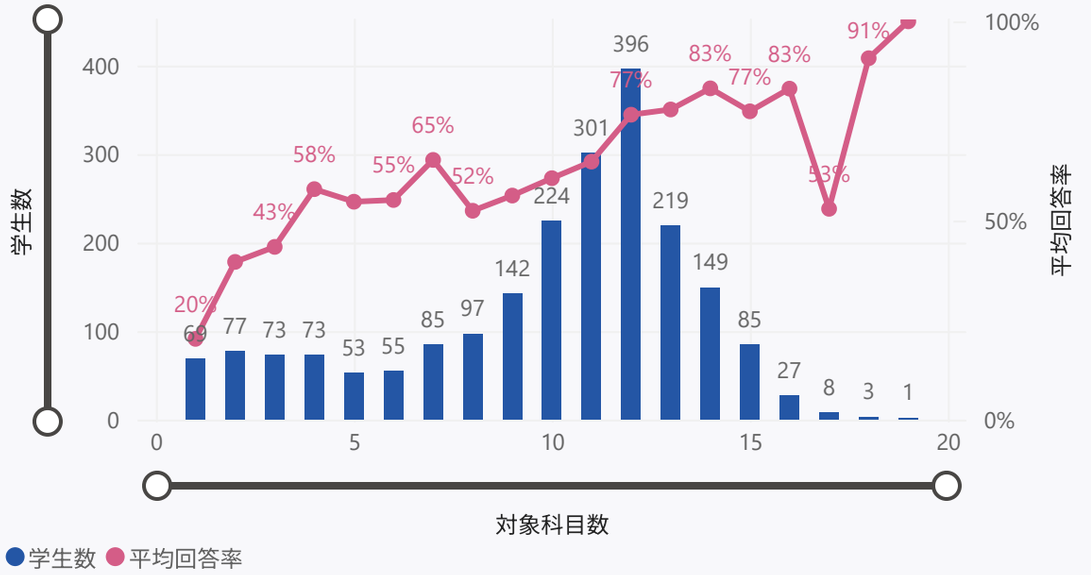


学年	学生数
1	668
2	637
3	432
4	400
合計	2,137

対象科目数別｜学生数と平均回答率

○ 100%回答者を除く

▶対象年度：2026前期　▶組織：複数・全組織　▶学科：複数・全学科



※対象科目数とは履修科目のうち、授業アンケートの実施対象になっている授業数のことを指す。

学年が上がるほど回答率は低下、対象科目数が多い学生ほど高い傾向

2026年度前期の学生別平均回答率は65.0%で、前年同期を1.1ポイント下回った。**学年が上がるほど全科目に回答した学生の割合は低く**なり、**4年生では回答率0%の学生が43%**を占めた。また、**対象科目数が多い学生ほど平均回答率が高い傾向**が見られた。

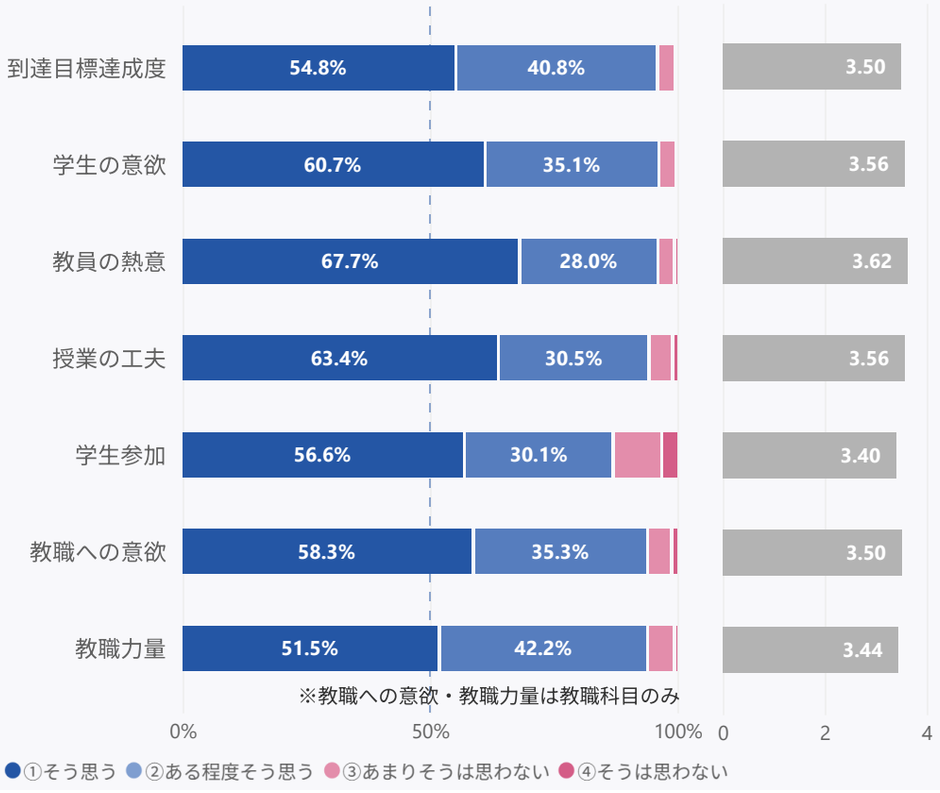
対象年度を選ぶ
- ○ 2024前期
- ○ 2024後期
- ○ 2025前期
- ○ 2025後期
- ◉ 2026前期
- ○ 2026後期

開講組織を選ぶ
- ○ 大学
- ○ 教職
- ○ 短大
- ○ 大学院

開講学科を選ぶ
- ○ 総経
- ○ 観光
- ○ 栄養
- ○ スポーツ
- ○ 教育
- ○ 健研
- ○ 総研

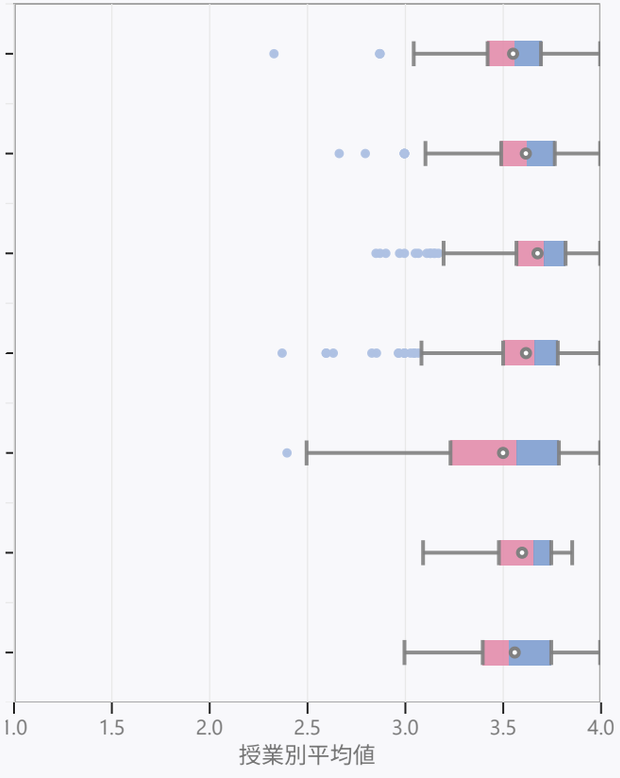
設問別｜学生回答割合

▶対象年度：2026前期　▶組織：複数・全組織　▶学科：複数・...



授業別平均値の分布

※箱ひげ図は授業別平均スコアの分布を示す。箱は中央50%の範囲、色の境目は中央値。箱の幅が広いほど、授業間のばらつきが大きい。



授業別平均値の中央値

カテゴリ	中央値
到達目標達成度	3.56
学生の意欲	3.63
教員の熱意	3.71
授業の工夫	3.67
学生参加	3.57
教職への意欲	3.66
教職力量	3.53

カテゴリ別肯定回答率

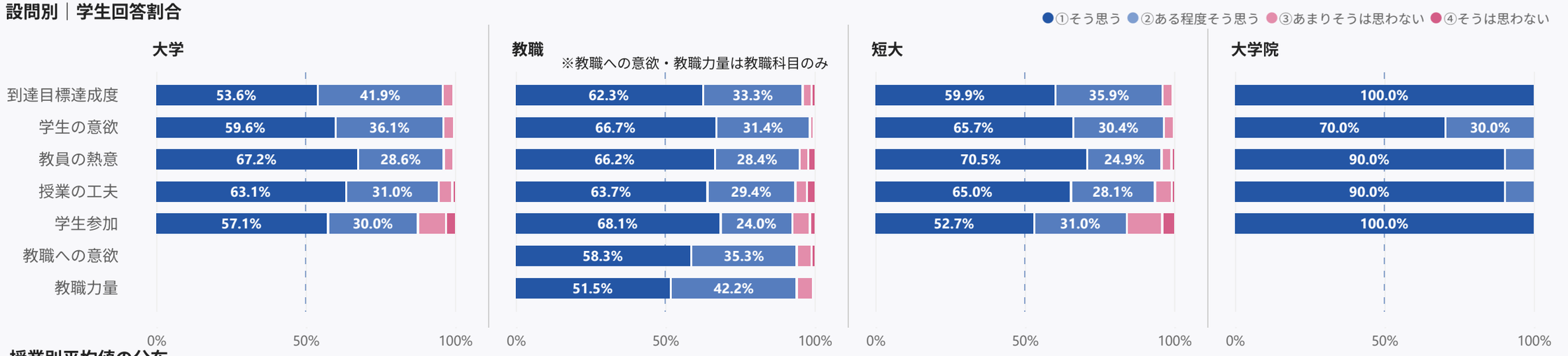
カテゴリ	肯定率
到達目標達成度	95.6%
学生の意欲	95.8%
教員の熱意	95.7%
授業の工夫	94.0%
学生参加	86.7%
教職への意欲	93.6%
教職力量	93.6%

全項目で肯定的な評価、学生参加は授業間のばらつきが大きい

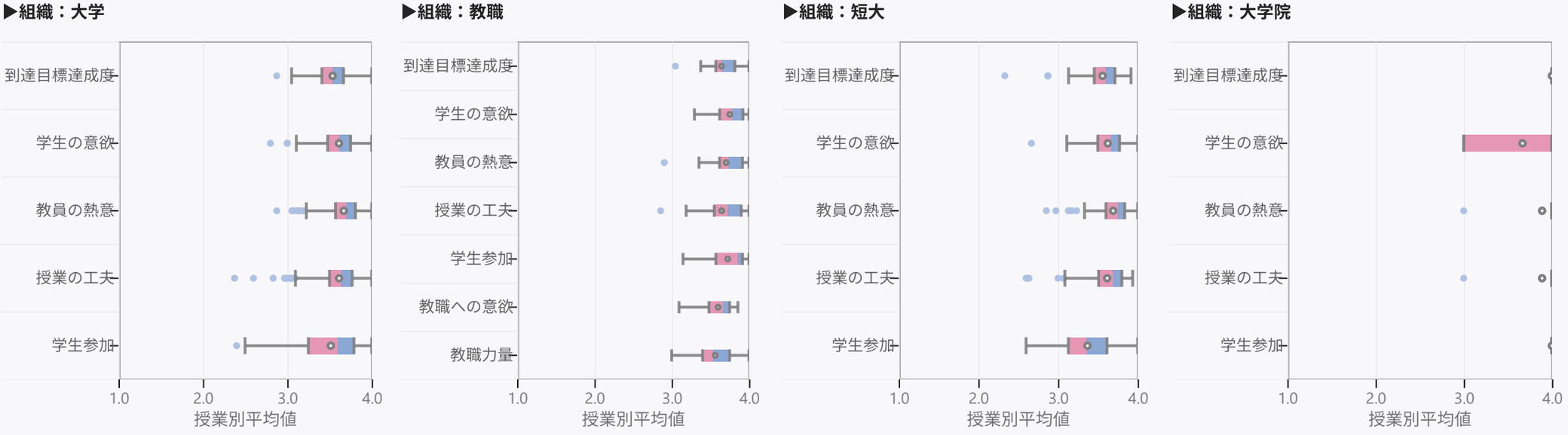
全項目で肯定的な回答が多く、**「教員の熱意」は平均スコアが3.62と最も高かった**。一方、**「学生参加」は肯定回答率86.7%、平均スコア3.40と他の項目より低く、授業間のばらつきも大きい**。全体として高い評価が見られる中でも、学生が参加できていると感じる程度には、授業による違いが見られる。

2026前期

設問別｜学生回答割合

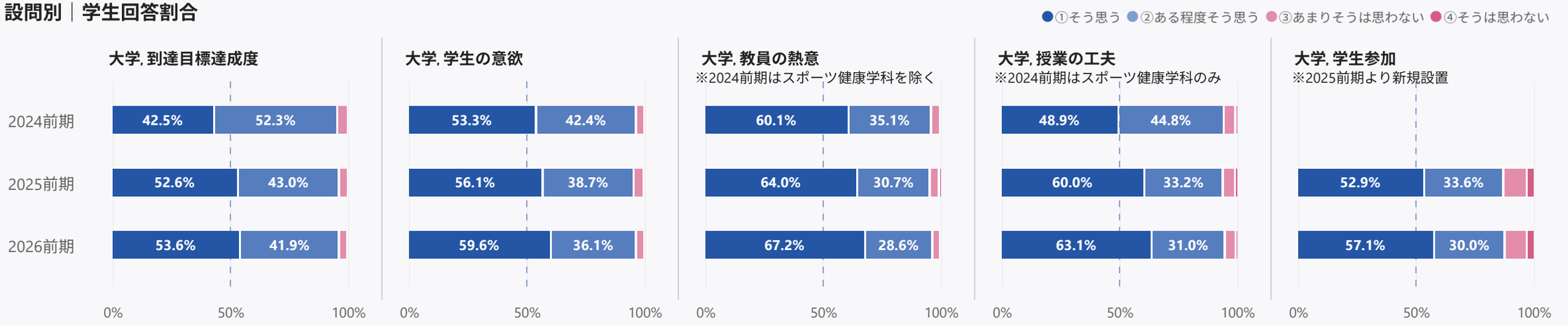


授業別平均値の分布

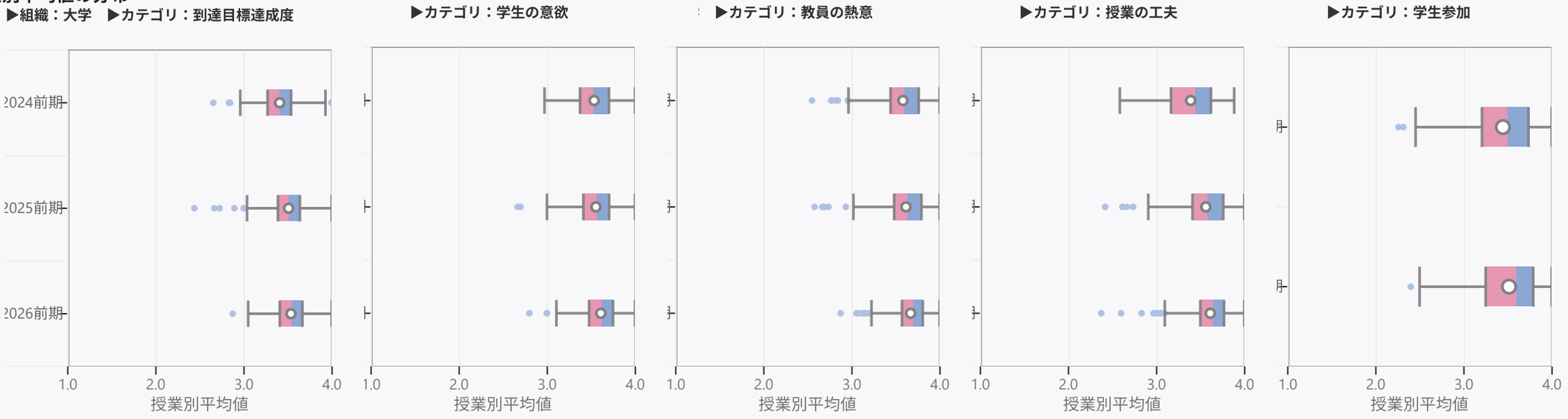


大学

設問別｜学生回答割合

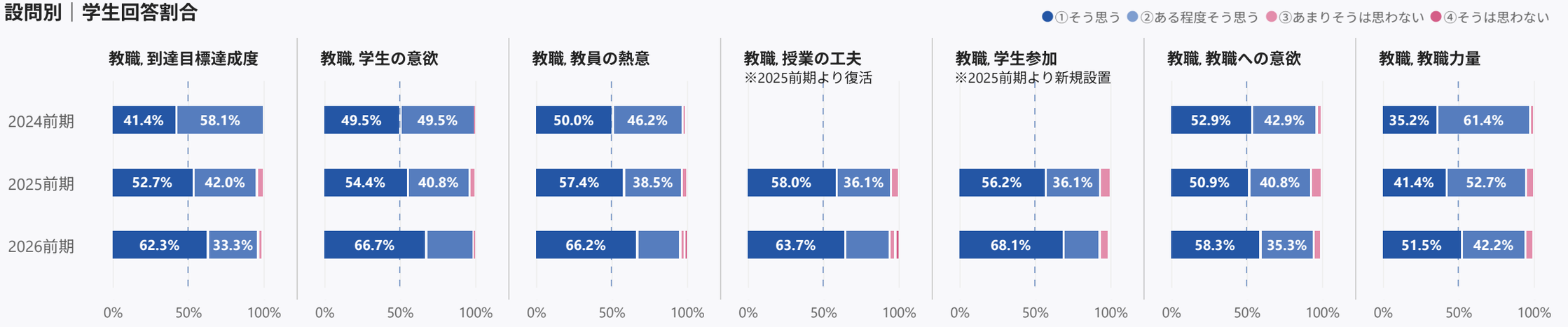


授業別平均値の分布



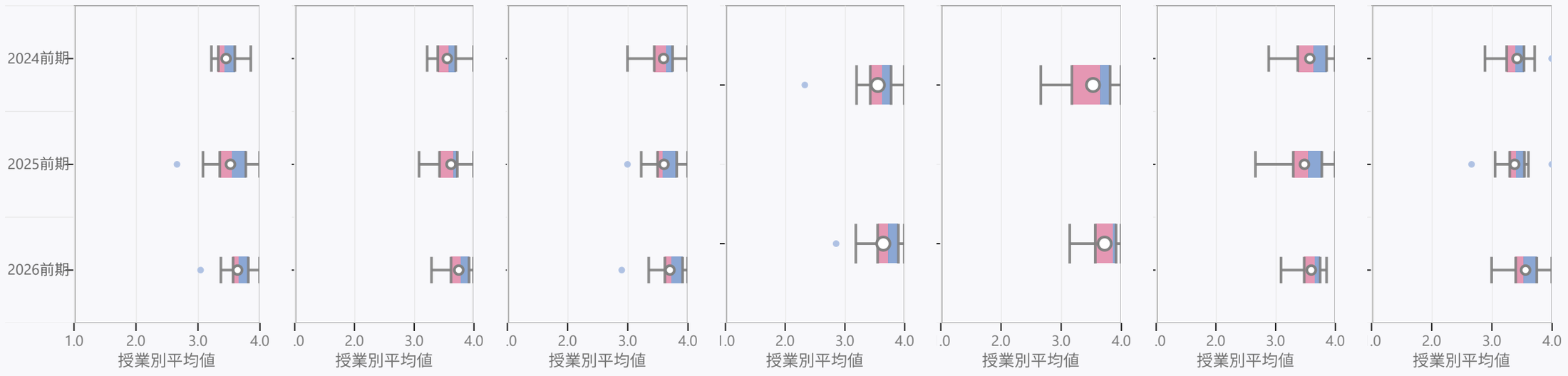
教職

設問別｜学生回答割合



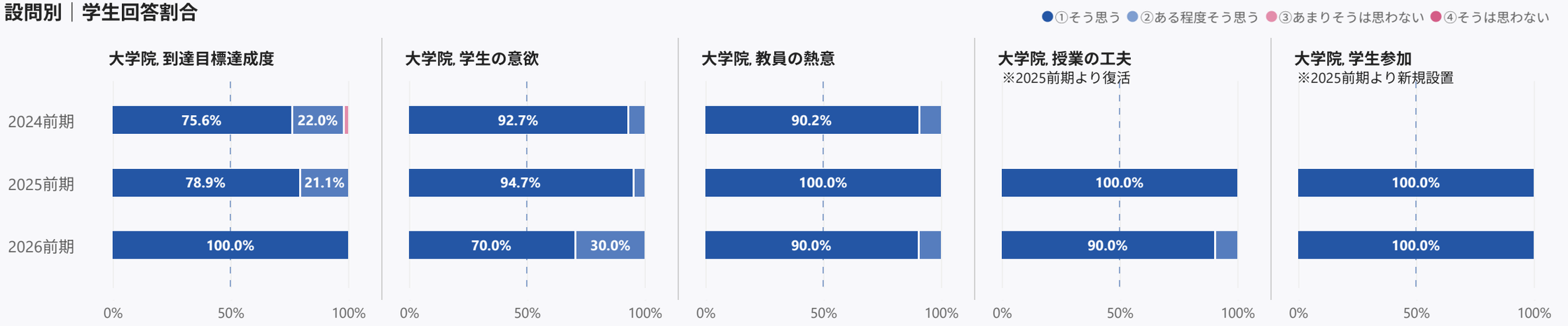
授業別平均値の分布

▶カテゴリ選択：到達目標達成度

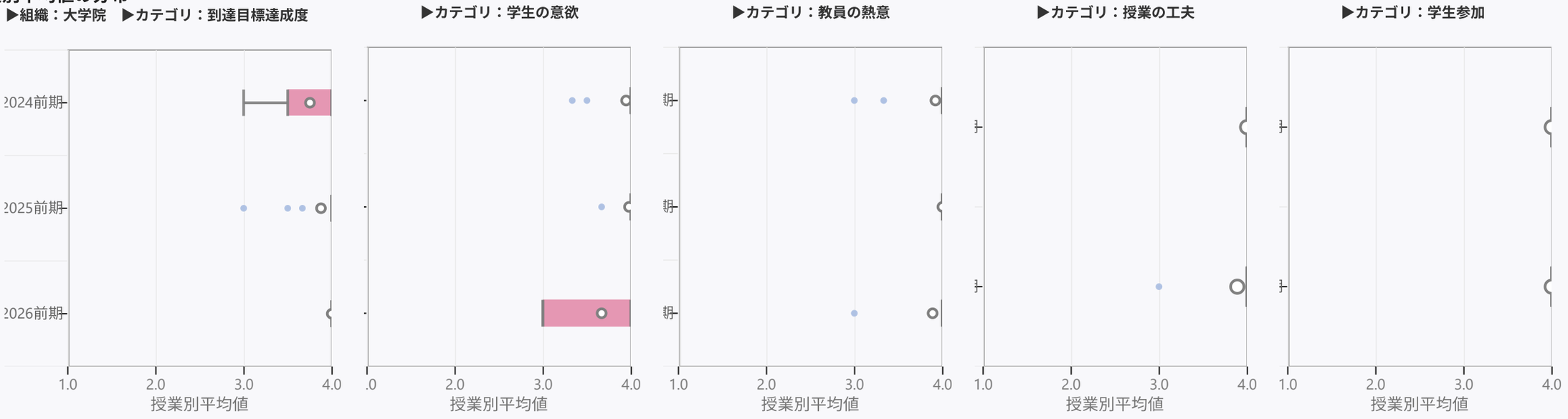


大学院

設問別｜学生回答割合



授業別平均値の分布



検証：学修到達目標達成度 上位25%・下位25%の授業の比較（単年度）

2026前期　大学　短大

学修到達目標の達成実感に、授業形態やクラスサイズによる違いはある？

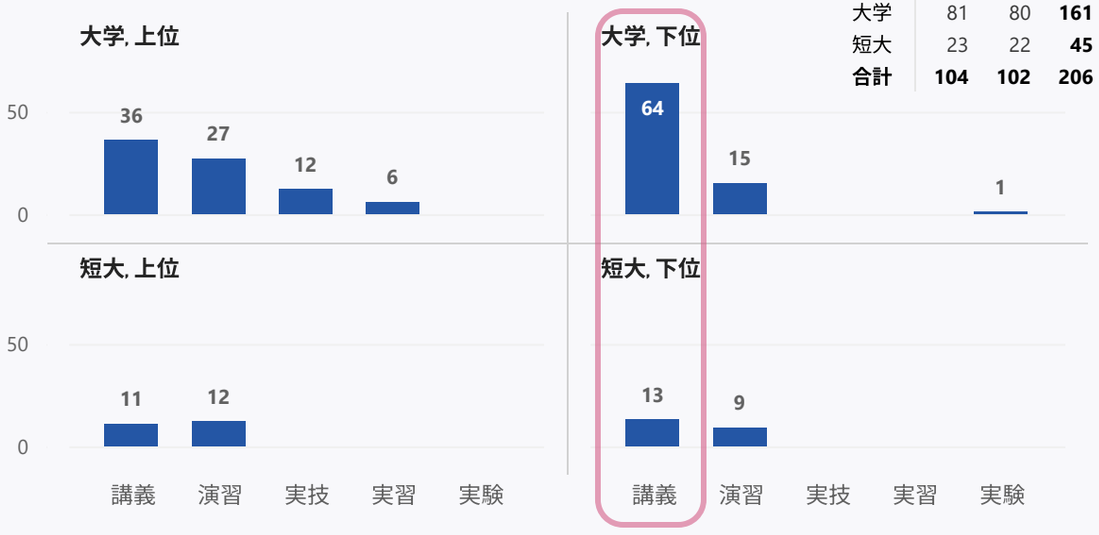
大学・短大それぞれについて、「学修到達目標達成度」の授業別平均スコアをもとに、**第1四分位数（下位25%の境界値）以下の授業を「下位群」、第3四分位数（上位25%の境界値）以上の授業を「上位群」**として抽出した。なお、境界値と同じスコアの授業をすべて含むため、各群の授業数は全体の25%と一致しない場合がある。

授業別平均値の分布 ※箱ひげ図は授業別平均スコアの分布を示す。箱は中央50%の範囲、色の境目は中央値。



学修到達目標達成度｜上位・下位群の授業形態別授業数

▶対象年度：複数年度・全年度

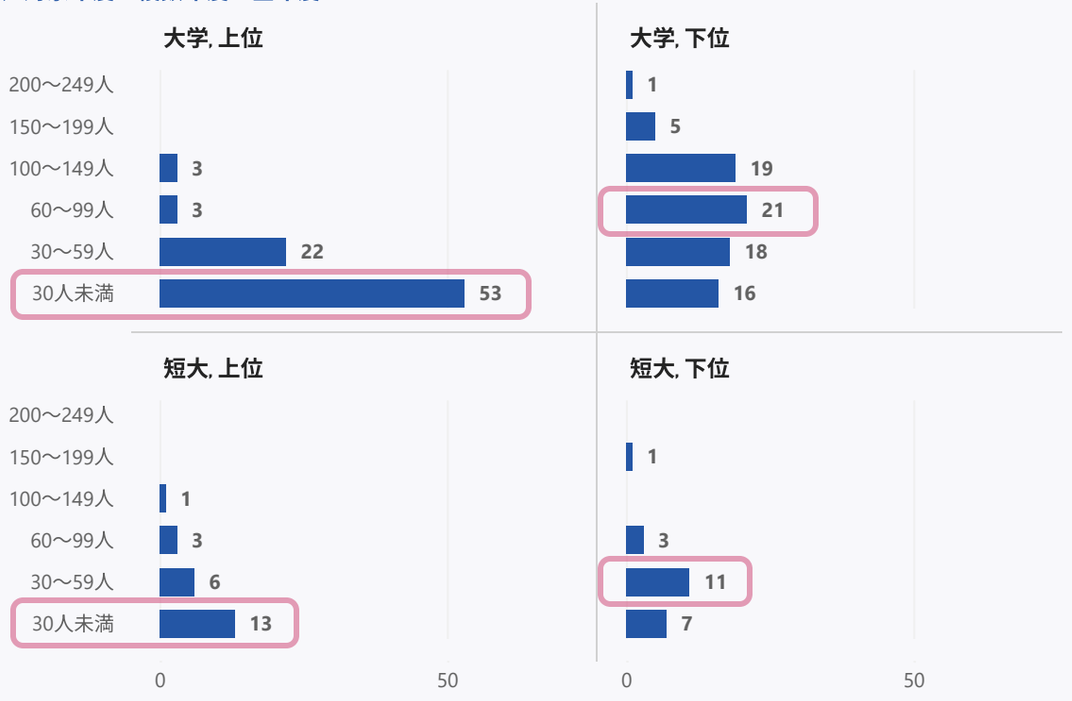


▶授業数の内訳

組織	上位	下位	合計
大学	81	80	**161**
短大	23	22	**45**
合計	**104**	**102**	**206**

学修到達目標達成度｜上位・下位群の対象人数別授業数

▶対象年度：複数年度・全年度



学修到達目標の達成実感：上位群は30人未満の授業が中心、下位群は講義の割合が高い

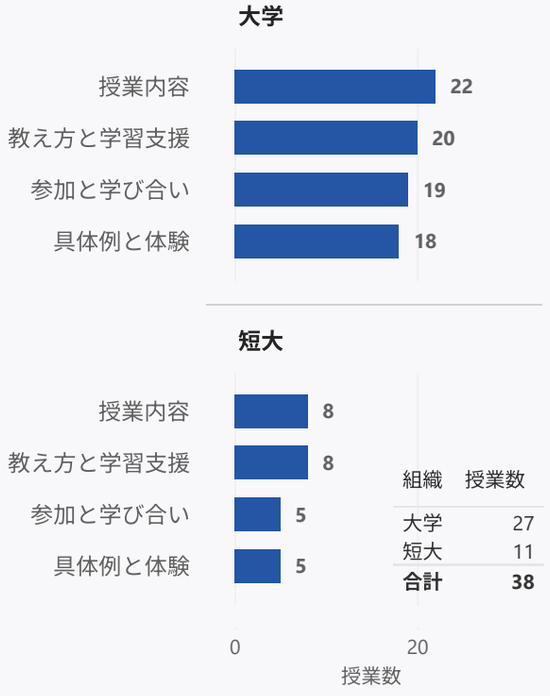
大学では、**上位群**に講義・演習・実技・実習など**多様な授業形態が含まれる**一方、**下位群は講義が中心**となっている。短大でも、下位群は上位群に比べ、講義の授業数がわずかに高い。対象人数を見ると、**大学・短大ともに上位群は30人未満の授業が多い**。一方、**大学の下位群は幅広い人数帯に分布し、上位群に比べて中・大規模の授業が多い**。短大の下位群では、**30～59人の授業が最も多く**、上位群より30人未満の授業の割合が低い。

検証：学修到達目標達成度 上位25%の授業で評価された点（大学：講義36科目中回答のあった27科目、短大：講義11科目中回答のあった11科目が対象）

【講義科目で比較】学修到達目標の達成を実感しやすい授業には、どのような特徴がある？

学修到達目標達成度が上位25%の授業のうち、講義形式の授業を対象に、「特に良かった点・有益だった点」の自由記述を4カテゴリに分類した。左図は各カテゴリに該当する記述があった授業数、右表は実際に記入された自由記述の内容を示している。なお、1つの記述に複数のカテゴリを付与しているため、カテゴリ間で授業数は重複する。

カテゴリ別授業数（4分類）



組織	授業数
大学	27
短大	11
合計	**38**

大学

カテゴリ	自由記述（原文）
授業内容	自身の運動感覚、運動構造の知識が深まった。今まで感覚でしか説明できなかったものがある程度言語化して言えるようになった
授業内容	発育・発達についてしっかりと理解することができた。将来や今後の生活に活かすことのできる学びであった。
教え方と学習支援	授業内で前回の授業の内容の復習プリントを行なっているところがとても良かった。|医学の基礎知識だけでなく予備知識も教えてくださるところが良かった。
教え方と学習支援	単元毎の押さえて置かなければならないポイントを毎授業の最後に入れいて理解がしやすかった。
参加と学び合い	一人一人が教科書の内容を読み解き、発表し合いお互いに意見を出し合うという方法がより深い理解に繋がりとても有益でした。
参加と学び合い	動画を見るだけではなく実際に自分が取り組むことで実感が湧いたり、その場面に応じて対応することができたと思います。
具体例と体験	小さな地域について事例を挙げて深掘りしていたので、農村のある方について新たな考えを持つことができた。
具体例と体験	先生自身の経験を踏まえながらの説明は理解しやすく、スっと頭の中に入ってきて覚えることができたと思う。

短大

カテゴリ	自由記述（原文）
授業内容	実際のコミュニケーションを通じて異文化への考え方を変えることができた
教え方と学習支援	先生の体験談が多く聞き飽きなかった。スライドもシンプルなのを意識してひとつのスライドにひとつのワードみたいなもので分かりやすかった。
参加と学び合い	クイズ形式で楽しかった！将来役立つ内容で学ぶ意欲が湧いた
具体例と体験	教科書だけでなく、実技や映像を見ながら学べてよかった。

達成実感の高い授業では、知識の深まりやわかりやすい説明、参加・体験が評価されている

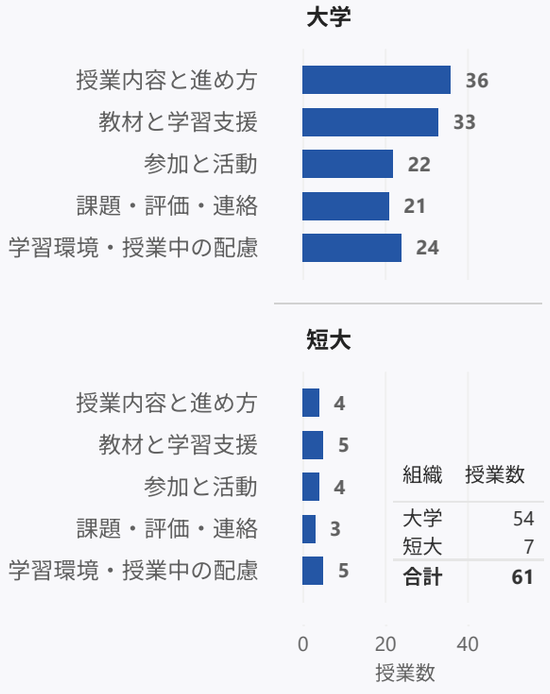
大学・短大ともに、「授業内容」と「教え方と学習支援」に関する肯定的な記述が、多くの授業で見られた。具体的には、**知識の深まりや将来への有用性、復習を助ける教材、要点を押さえた説明**などが挙げられている。また、**発表・意見交換や実際に取り組む活動、具体例・教員の経験談**も、理解を深める点として評価されている。

（大学：講義64科目中回答のあった54科目、短大：講義13科目中回答のあった7科目が対象）

【講義科目で比較】学修到達目標の達成を実感しにくい授業には、どのような特徴がある？

学修到達目標達成度が下位25%の授業のうち、講義形式の授業を対象に、「この授業をよりよくするための提案」の自由記述を5カテゴリに分類した。左図は各カテゴリに該当する記述があった授業数、右表は実際に記入された自由記述の内容を示している。なお、1つの記述に複数のカテゴリを付与しているため、カテゴリ間で授業数は重複する。

カテゴリ別授業数（5分類）



組織	授業数
大学	54
短大	7
合計	**61**

大学

カテゴリ	自由記述（原文）
授業内容と進め方	スライド1枚1枚の内容量が多く、説明も多いので事前にスライドを配信してくれると授業中に書ききれなかった所をその場で書けるので、事前にスライドを配信して欲しい。
教材と学習支援	先生によってレジュメや資料を用意してくれる方とそうでない方がいるのですが、講義を聞く上でより理解を深めるためだったり、振り返りに活かすためにもレジュメや資料を配布していただけるとありがたいです。
参加と活動	グループ分け人数が多いことで力出してない人と出してる人の評価が同じくなるのは不公平ではないかと思う。
課題・評価・連絡	シラバスには評価基準がレポート60%課題40%と書かれていたが、最終的に評価の仕方がレポートからテストに変わっていたので、もし評価基準が変更されるなら早めに伝えてほしい。
学習環境・授業中の配慮	ひとつ気になることといえば、淡々とスムーズに授業を進めていただいてますが、授業の妨げとなるうるさくしている人達へ軽く注意をしていただけたらな、、と思いました。

短大

カテゴリ	自由記述（原文）
授業内容と進め方	計算問題を一緒にゆっくりやる時間が欲しいです。後ろの席なので字が見えずらい時がありました。
教材と学習支援	モニターを利用した、見やすくわかりやすいスライドを使った方が理解しやすいなと思う。
参加と活動	ひとりで理解するのは難しかったので、グループワークの時間が欲しいです。
課題・評価・連絡	シラバスにテキスト配布と書かれていたが、配布されないまま既に配布した様に授業が進んでいった。小テストの解答がTeamsにあるが、招待されておらず見る方が出来なかった。
学習環境・授業中の配慮	黒板の下の方に書かれている文字が見にくかったので、上の方に書いていただきたいです。|

達成実感の低い授業では、授業の進行速度や資料配布、教材の見やすさへの要望あり

大学・短大ともに、理解やメモの時間の確保、資料の配布、板書の見やすさ、質問やグループワークの機会など、**学修を進めるための支援に関する提案**が見られた。学生自身の主体的な学びを大切にしながら、理解や参加を支える工夫も必要とされていることがうかがえる。また、**シラバスに示した評価方法と実際の評価との整合性に関する指摘**もあった。下位群には比較的人数の多い授業も見られたことから、**授業規模に応じた支援のあり方**も、あわせて考えていきたい。